

令和6年度 学校経営計画 年度末評価

分掌	達成目標	達成度	評価分析
総務部	学校行事の保護者出席率65%（全行事のべ率）	59%	PTA役員会を年間で4回開催した。4回トータルの出席率は59%で目標値65%には到達していないが、概ね6割近くの出席率であった。文化祭のバザーやお弁当コンテスト挨拶運動等は参加いただいたPTA役員の方々は熱心に活動を行っていただいた。（文化祭の来校者数は832人）
	美化委員会の実施（年間4回実施）	100%	年間で6回の美化委員会を開催し、日常的に校内美化の実現に努めた。また、文化祭や体育祭などの学校行事において整理整頓ができて環境を作るため、全学年の美化委員が中心となり清掃活動を行った。
教務部	地域や高大接続連携校、卒業生等多様な連携による総合的な探究の時間を年3回計画する。	100%	総合コース：地域企業との連携・発表会の実施 選抜コース：連携校との交流 食育：地域企業との連携・商品開発
	ICTを使用した研究授業の実施、および授業評価アンケートを100%実施する。また肯定的評価85%以上を求める。	100%	ロイロノートを使った研究授業の実施、各教科での満足度アンケート評価目標達成。
	各コースの特性を活かした探究活動の実施。授業観察年2回実施。	100%	総合・選抜・食育とコースの特性を活かした探究活動の実施が行えた。
	国際食育デザイン科の専門科目における1単位35単位時間の厳守のための行事予定変更・時間割設定を行い、長期休暇中の補充を5日以内にする。	100%	1年2日・2年5日・3年8日の実施となり、平均5日となった。
情報部	学期にて校内でのタブレット利用についてアンケートを実施	66%	ロイロノート中心にタブレット利用定着。部活動アプリ導入でタブレット活用拡大。要望踏まえ学習アプリも検討。
	研修を実施	100%	生成AI研修実施。知識習得も活用についてはこれから。今後、勉強会や事例共有で活用推進。
	外部研修/見学に参加（年6回）	50%	外部研修・見学を3回実施。教育動向や探究学習とICTがどのように関連していくかについて学ぶ。今後は研修内容の共有と実践への落とし込みを推進。
進路指導部	スタディサプリによる動画配信 月10回以上かつ視聴率90%以上	B	導入初年度で教員の不慣れもあり、視聴率については追うことができなかったが、配信は月平均24.4回であった。
	普通科の大学進学率55%（大学進学者数/卒業生数）	52%	目標値は下回ったが、前年度より0.7ポイント増加した。特に総合型選抜での合格率は7.3ポイント増加しており、本校での学習活動や課外活動が強みになっていると思われる。
	3年生の希望進路実現率100%（進路実現者数/進路希望者数）	B	進学を希望していたが、諸事情で就職に変更するケースが見られた。
	情報共有・研修会の実施 年5回以上かつ関係教員の参加率80%以上	B	研修会という形式は業務多忙の中で行えなかったが、回覧形式とすることで関係教員全員に対して新課程入試、県内および連携校の入試説明会の情報などを共有できた。
生徒指導部	いじめ防止・対策にむけてアンケートを2回以上実施	100%	長期休暇中前にアンケートを実施。
	校外指導を5回以上実施	70%	考査後や市内イベントでの校外指導実施。
	遅刻防止・ベル着に向けたの時間を守る指導を5回以上実施	100%	遅刻防止週間を年に5回実施。
	頭髪・服装・身だしなみ指導の服装指導を3回以上実施	100%	各学期初めに頭髪・服装指導を実施。
	アルバイトを希望する生徒に対する指導を4月に行いその後は随時実施	100%	希望者に、一人一人規定を説明。学業第一であることを確認、説諭。
	自転車マナー・スマートフォンの使い方・防犯対策など安全教室を2回以上実施	0%	日程調整ができなかった。
	正門での挨拶運動を毎日実施	100%	生徒の様子を確認し、声掛けを実施。
	保健	毎週連携強化のため、教育相談・生徒指導・カウンセリングとの情報交換を行う	70%
保健だよりの毎月の発刊		100%	毎月発刊実施
カウンセリング実施日 48日		100%	規定回数を実施
健康教室の実施回数 3回		100%	薬物乱用・がん・性・たばこ酒教育実施

分掌	重点目標		
広報部	年間10回以上実施するオープンスクールにおいて参加者満足度90%を達成する。	A	オープンスクール(全体会)全3回について 参加者満足度100%を達成
	ホームページ・インスタグラムについて週5回以上の投稿を実施する。	A	週5回以上の投稿を達成し、今年度フォロワー数が1000を超えた。2025年3月時点で1110フォロワー(昨年度評価時点から300以上のフォロワー数増加)
	掲示板について月12回以上の掲示を実施する。	A	月12回の掲示を実施した。このほか横断幕掲示も行い、継続して地域へのアピールを行っている。
普通科総合コース	「知ること」で視野を広げ、また社会に目を向けることに興味を持った。	A	自分自身だけでなく、他者の視点に立って物事を考える学びを行った。(1年生) 広島県内の企業と関わり、企業が抱える課題の解決案を模索した。(2年生) 「連帯」し、「助け合う」社会にしていくための主権者意識を持ち始めた。(3年生)
	学ぶことで自分自身を振り返ることに繋げ、積極的な行動に移すことができた。	A	企業が抱えている問題を生徒自身が考え、発表を行った。(1年生) 社会にあふれる問題を自分事として捉え、問題解決へと行動に移すことができた。(2年生) 3年間で学んだことを活かし、進路実現に向け計画的かつ主体的に進路と向き合うことができた。(3年生)
	フィールドワーク、体験型授業の参加率90%以上。	A	3学期から5つのゼミに分かれ、企業とのディスカッションを通して、それぞれの課題に取り組んだ。(1年生) 3つのゼミの活動を通じて、地域や企業と連携し、体験を通じて学習意欲を高めた。(2年生) 韓国仁川アラ高校生徒にこれまでの学びをアウトプットしたり、宮島で外国人へのインタビューなど行った。(3年生)
普通科選抜コース	3年生全員共通テストを受験し、総合点の得点率70%以上とする	C	1名を除き受験をした。得点率は35%で目標に大きく及ばない点数となった。しかし、1,2年生では放課後学習会に参加する生徒も増え、家庭学習の定着も見受けられる
	2年次終了時の実用英語検定2級取得率を50%以上とする	B	2級2名、準2級9名(20名中) 2級の取得率が10% 直前の対策講座も今年度から実施した。
	国公立大学受験者30%以上(内、合格率50%以上)	C	国公立大学への受験3名、内合格は2名 2年生へは、年内入試への傾向が強まるなか、一般入試まで努力し続ける進路支援を行った。
国際食育デザイン科	放課後や家庭での実技練習・学習の場の設定	A	放課後を利用し多くの生徒が調理実習実技試験の練習を行っている。また、受験や定期テスト前の勉強を行う教室を設けており、利用している生徒もいる。
	参加するコンテストの精選、入選率向上(外部コンテスト8点以上)	A	9点(学校賞も含む) 休日や放課後を利用し、指導を行っている。
	各種イベントへの参加と校内実施の定着(食育生徒数×延べ1回以上)	A	参加延べ人数139人(1人あたり1.08回)1人1回以上の参加を呼び掛けた。
	専門性を生かした進路実現者数の増加(70%以上)	B	専門性を生かした進路67%(42名中28名) 進学・就職ともに調理の専門性を活かした進路の選択肢が多くあるなかで進路実現を可能にしている。一方、直接的には調理に関係しない進路を希望する生徒にも適切な進路支援を行った。